

地のすべての部族は、あなたによって祝福される。”という約束です。

ユダヤ人の国がいかに小さく、そして、それを踏み潰そうとしている国がいかにおっきくても、そのおっきい国がユダヤ人を滅ぼそうとするなら、大きい国が滅びるのです。
そして、滅ぼされたはずのユダヤ人たちの国は現在 在るんですよ。

1948年5月14日に、ローマによって滅ぼされたあの同じ場所に再建されたんです。
ローマがユダヤの国を滅ぼしたのはAD70年です。そして、世界中にユダヤ人たちは散らされたんですが、それから約1900年後に、元いた場所にユダヤ人たちは国を造った。
その一部始終の預言が、聖書の中に前もって書かれてあるんです。

このアブラハム契約、ユダヤ人と関わる者たちの中で、心ある者は「不思議だなあ、ユダヤ人は…」という風に段々分かり出すんですね。
つまり、ユダヤ人を滅ぼそうとする者は滅ぼされ、そして、滅ぼされはずのユダヤ人たちを匿ったり・受け入れたり・また厚遇した国は、短期間のうちにメキメキと成長し大繁栄するんです。

それらのことを通して、“ユダヤ民族を興した神は宗教の神じゃない。実在する神である。生きて働く神である。この神こそは本物の創造主なる神である”ということが分かるんですね。
ユダヤ人以外の民族にとってアブラハム契約は、“ユダヤ人が信じている創造主は自分たちの神でもあるんだ”ということを知るための強力なメッセージとなったんです。
同時に、ユダヤ人たちにとっても、自らの身の安全を保障する契約となっているわけですね。

アブラハム契約は時間と共に発展していくんです。
アブラハムが100歳をはるかに超えた頃、神はアブラハムにこのように言われたのでした。
「あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従ったからである。」

「あなたを祝福する者は祝福される」という言葉でしたが、ここでは「あなたの子孫によって祝福される」というんですね。アブラハムによってだけではなく、アブラハムから出て来る子孫によって、地上の全ての国民・全ての民族は祝福を受けるようになるという、より具体的でグローバルな約束に内容が発展していくんです。

ところで、**子孫**という言葉、ヘブライ語では“ゼラー”です。
子孫を表すゼラーには単数形しかないんです。
つまり、子孫が1人でも10人でも100人でもゼラーなんです。

英語でもありますよね。英語で日本人のことを何と言いますか？ Japanese ですよ。
これの複数形は何ですか？ Japanese ですよ。単数形でも複数形でも形が変わらないんです。
単数として読むのか複数として解釈するのは、前後の文脈で判断するんですね。
Sheep もそうでしょ。羊って1匹でも100匹でも Sheep. Sheeps って、複数形の s 付かないんです。
同じなんですね。

ゼラーという言葉は、もしそれを集合名詞として捉えるなら、アブラハムから来たユダヤ民族全体のことを指すんです。でも、集合名詞ではなく単数形として解釈する時は、アブラハムから出て来る、アブラハムの子孫の中から出て来る特定の1人のことなんです。

「アブラハムから出て来る特定の1人が全人類を祝福するようになります。全人類の祝福の源になります」というわけなんですね。

このアブラハムから出て来る、全人類に祝福を与える人物こそはメシアです。キリストです。

アブラハムからたくさんの子孫が生まれて来ますが、その子孫のうちのどれから出て来るんだろう？ 1000年後にダビデという王様が出て来ます。ダビデ王からまた色んな子孫が出て来るんですが、“アブラハムの子孫であり、ダビデの子孫である”という条件を満たしている子孫の中から救い主が出て来ると言うんです。イエス・キリストは、この2つの条件を満たしているんですね。

すなわち、旧約聖書というのは、やがて神がユダヤ民族を通して送るメシア/キリストとはいったい誰なのか？ということ、より細かな条件を付けて、前もって預言している書物なのです。

キリスト到来以前に書かれた旧約聖書は、①キリストはどこで生まれるのか。②何と名付けられるのか。③どんな生き方をするのか。④どんな殺され方をするのか。⑤どんな裏切られ方をするのか。旧約聖書に大体350か所書かれてあるそうです。

この350のキリストの前もっての預言が全部、この人の人生の中で実現しました、ということを実証している本が新約聖書ということになるんですね。

ところで、先ほど読んだ箇所、[創世記 22 章 18 節](#)にこう書いてありました。

あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に従ったからである。

いったい、どんな聞き従いをしたんでしょう？

アブラハムにはイサクという息子がいたんですね。高齢になってから生まれたんです。

もう愛して愛して、目の中に入れても痛くない。その愛するイサクを連れて、全焼のいけにえ/丸焼けのいけにえとして神に献げなさいという命令を受けるんです。つまり、子殺しですよ。

何で、そんな命令するんですか？ そもそも、私を通して、私の子孫を通して祝福するという神様が、なぜ「一粒種のイサクをいけにえにして献げよ」と仰ったんだろうか？

しかし、アブラハムは口答えを一切せず、歩いて3日の道のりを、神が示す場所まで行くんです。それは山でした。“モリヤの山”と言います。その山に行く道々、息子が聞くんですね。

「お父さん。」「何だ？わが子よ。」「火と薪はありますが、屠るためのいけにえとなる羊、どこにもいないんですけど。どこにあるんですか？」するとアブラハムは、「息子よ、神が全焼のためのいけにえの羊を備えてくださるんだ」と言って、2人は歩いて行くんです。

そして山の上に着いて、アブラハムはイサクを縛って薪の上に置き、刀を振り降ろして、まさに屠ろうとした時に、神が「やめなさい。アブラハムよ、アブラハムよ、あなたはわたしを恐れることがよく分かった。その手をあなたの子に下してはならない。」

アブラハムがふと見上げると、角を藪に引っ掛けている羊が見えたんですね。
その羊を身代わりにして献げました。

今説明した箇所は、『天地創造』という映画のラストシーンなんです。

日本人はそれを見た時ポカ〜ンとしてね、なんのこっちゃ?!

この映画の一番エンディングというか、一番クライマックス、一番結論はいったい何なの？

“神様が父親に対して息子を殺せと言って、殺そうとした時に止めました。そして、息子と父は手を取り合って大喜びしてますう。” 何の意味がある？ 止めんのやったら、最初から何で命令するん？
なんてナンセンスな話なんだ！ ということで、チンプンカンプンなんですね。

しかし、この中に神のメッセージが秘められているのです。

皆さん、親友には自分の深い気持ち、分かって欲しいと思うんじゃないですか？

全ての人に誤解されてもいい。でも、自分が見込んでいて、自分の心の内を何でも打ち明けることが出来る親友には、心の痛みや憂いや一番気に掛かっていること、また喜びも悲しみも共有したいと思うんじゃないありませんか？

神はアブラハムのことを友と呼んだんです。神の友アブラハム。

親友であるアブラハムに、ぜひ分かってもらいたい神の痛みがあったんです。

神はやがて、ご自分のひとり子をこの世界に遣わし、全人類の罪を償うために、イエス・キリストご自身をいけにえとして屠る、ということを決めておられたんですね。

人間の罪の償いを人間にさせるのではなく、人間に代わってイエス・キリストを屠ることによって、つまり、人間の罪の身代わりに キリストをいけにえとして屠ることによって全人類の罪を赦す、という計画をお立てになったのです。

それが実現したのがイエス・キリストの十字架で、この十字架が立てられた場所がエルサレムです。

エルサレムはかつてアブラハムの時代、モリヤの山と呼ばれました。

すなわち、アブラハムがイサクを献げたその場所で、エルサレムとなるようなその地域で、やがて神はイエス・キリストを十字架の上で屠ってくださったのです。

新約聖書の中に、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」と書いてあります。

神はあなたのことを愛しています。ご自分のひとり子を十字架の上で捨ててしまわれるほどまでに、あなたのことを愛し、あなたが救済されることを心底願っておられる方なのです。

さあ、このユダヤ入門シリーズを通して、私たちは聖書全体を学んでいくことが出来ると思います。時々難解なところが出て来るかも知れませんが、「分かるところだけ分かっただけいいわ」くらいのつもりで、どうぞまたお聞きになってください。

それではまた『ごうちゃんねる』でお目にかかりましょう。さよなら!!